

仙台市図書館 2010.4

# 本の 道の案内

～ 図書館レファレンス事例より ～

## はじめに

多種多様な情報が社会に溢れている現代において、市民は自分の求める情報を的確に把握する手段として、あらゆる情報が蓄積されている図書館にその場を求めて来館する傾向が、近年になって特に多くなってきています。

求められる内容についても幅が広く、所蔵の有無、生活する中での身近な疑問、郷土の歴史や出来事に関する調査、専門的な事柄の研究等々、多岐にわたっています。

情報の案内役としての図書館職員は、市民が求めるこれらの疑問や調査・研究の一つひとつに対して、市民とのコミュニケーションを図りながら、蔵書資料とインターネットや外部のデータベース等の電子媒体を体系的に検証しながら、市民に適切な資料の提供を行っています。

この業務は「レファレンス」と言われ、図書館職員の専門性と経験を要する大切な機能であり、図書館サービスの根幹を成す一つのものでされています。

平成 20 年における市内図書館のレファレンスサービスは、図書館全体で 83,342 件に達しており、いかに多くの市民の皆さんがレファレンスを活用しているかを計り知ることができます。

しかし貸出の業務に比較すると、レファレンス業務はまだ十分に市民の間に浸透していないことも事実です。

そのため、これまで仙台市図書館で受けたレファレンスの事例を多くの市民や図書館関係者に知ってもらおうと共に、これからの日常の生活での参考として活用していただけるよう、「レファレンス事例集」を発行いたしました。

この「レファレンス事例集」は、平成 19 年度から平成 21 年度まで市内各図書館で受けたレファレンスの中から、比較的身近な話題を取り上げてまとめたものです。

皆さまに本冊子をお読みいただき、ご意見ご感想をいただければ幸甚に存じます。

平成 22 年 4 月

仙台市民図書館

館長 伊藤 益義

## 目 次

はじめに

質問内容	ページ
戦前の宮城県図書館の写真について .....	1
小説に出てきた「仙台大新聞」の発行について .....	2
アダムとイブが食べたという「禁断の実」とは？ .....	3
清国人が仙台領に漂着したのはいつ？ .....	4
金成善左衛門という人物について .....	5
宮城県丸森町にある「斎理屋敷」について .....	6
仙台市青葉区にある「愛子(あやし)」の地名の由来とは？ .....	7
民法900条法定相続の条文が見たい。 .....	8
世界各国の年金の支給額について .....	9
仙台市の学校給食に牛乳が使われ始めた時期について .....	10
以前食べた仙台銘菓とは？ .....	11
『伊達治家記録』にある「ヨリミツ」とは？ .....	12
「戦陣訓」の全文を読みたい。 .....	13
「黄瓜菜」とはどんな草花か？ .....	14
伊達政宗が食べた料理とは？ .....	15
仙台市が出しているデザイナーへの補助金について .....	16
丸光デパート(仙台市)のミュージックサイレンについて .....	17
仙台にはじめて建ったホテルとは？ .....	18
『現行日本法規一道路』にある車両種類の略称について .....	19
ハンガリーの画家シニエイ＝メルシェ・パールについて .....	20
童謡「里の秋」の歌詞について .....	21
野球用語について .....	22
東北の女相撲について .....	23
武道「槍術」の宮城県での歴史について .....	24
武田信玄が引用した言葉について .....	25
昭憲皇太后の和歌が載っている本は？ .....	26

Q.

戦前の宮城県図書館の写っている写真が見たい。

A.

『仙臺市寫眞帖(せんだいししやしんちょう)』の10枚目  
『近代日本図書館の歩み』 地方篇のp.62  
『仙台なつかし写真展』のp.156  
『絵葉書で綴る大正・昭和前期の仙臺』のp.67

宮城県図書館は明治14年(1881年)宮城書籍館として創設されたのがその始まり。  
大正元年(1912年)現在の勾当台公園南部に新築落成したが、昭和20年(1945年)  
仙台空襲のため全焼した。写真は上記の資料に載っている。

## 回答プロセス

雑誌『仙臺文化』第2号のp.18に宮城県図書館(定禅寺通、大正元年)の写真が載っ  
ていて、出典は『仙臺市寫眞帖』とある。

『仙臺市寫眞帖』を提供した。

戦前の宮城県の年報のたぐいは所蔵していないので、『近代日本図書館の歩み』  
地方篇で『宮城県要覧』大正2年度版から引用したという写真を見つける。

その後、調査相談カウンター付近にあった資料から次の資料をあわせて提供する。

『仙台地図さんぽ 100年前の仙台を歩く』のp.85にも『仙台なつかし写真展』『絵葉書  
で綴る大正・昭和前期の仙臺』と同じ写真が載っているものの、サイズが小さい。

### 参考資料

『仙臺市寫眞帖』(仙台市役所 1925年)  
『近代日本図書館の歩み』 地方篇(日本図書館協会編集・発行 1992年)  
『仙台なつかし写真展』(仙台なつかしクラブ制作 2001年)  
『絵葉書で綴る大正・昭和前期の仙臺』(イーピー風の時編集部製作・発行 2006年)  
『仙臺文化』 第2号(渡邊慎也／編集 『仙臺文化』編集室／発行 2005年)  
『仙台地図さんぽ 100年前の仙台を歩く』(2009年)

Q.

「仙台大新聞」という新聞が、大正末から昭和のはじめにかけて発行されていたというのは本当か？  
『血脈』上巻（佐藤愛子／著 文芸春秋 2001年）の中に出てきたのだが。

A.

『河北新報の百年』p.180に「日刊大仙台」についての記述があり、昭和3年(1928年)に創刊され、のちに「仙台日日」と合併したとある。

大正から昭和の初期にかけて、東北各地で多くの新聞が誕生した。

宮城県の場合、明治に創刊された「東北新聞」や「奥羽新聞」はすでに廃刊し、「仙台日日新聞」が残っていた。大正4年(1915年)に「東華新聞」、10年(1921年)に政党紙の「新東北」、15年(1926年)に夕刊紙の「宮城毎日」が出た。昭和3年(1928年)には「日刊大仙台」や「奥州日報」が出された。

その他宮城県各地で地域を地盤にした新聞が出ており、塩釜の「陸羽日報」、大河原の「仙南日日」、古川の「仙北日日」、石巻の「石巻日日」、「宮城新聞」、「日刊宮城」、気仙沼の「大気新聞」、「気仙沼日報」がある。

## 回答プロセス

まず、小説『血脈』上巻第4章のなかで、サトウハチローの弟・久の勤め先として、「仙台大新聞」ではなく「日刊大仙台」という新聞の名前を確認した。

『仙台市史』、『宮城県百科事典』等をあたるが確認できなかった。

そこで、仙台の新聞の歴史は河北新報の歴史にも通じると考え、『河北新報の百年』『河北新報の生誕前後』p.114を見たら記述があった。

### 参考資料

『河北新報の百年』(創刊百周年記念事業委員会／編集 河北新報社 1997年)

『河北新報の生誕前後』(河北新報紙齢三万号記念事業委員会／編 河北新報社 1980年)

## 古い新聞を読むことができます

市民図書館では、過去の新聞を原紙とマイクロフィルムで見ることができます。

河北新報 原紙 昭和37年1月～

河北新報 マイクロフィルム版 明治30年1月～  
\*欠号年月

明治30年10月～31年2月

明治31年6月 大正元年8月～7年7月

昭和20年1月～6月



Q.

聖書の中でアダムとイブが食べたという「禁断の実」とは何か？  
一般的にはリンゴといわれているが、明記されているものはあるか？

A.

「禁断の実」については諸説あるということを示した。

『岩波キリスト教辞典』p.322に、「りんごとされるのはラテン語malumの「悪」(malum) の類似から」とある。

『日本大百科全書』24p.201に、「「知識の木」tappuahはリンゴと訳されているが、聖書の舞台となった紀元前のパレスチナの地に「食べるによく、目には美しい」と創世記で表現されたようなリンゴは、栽培されていなかったとみられ、「箴言」に出る金のtappuahとの関連から黄色く熟するアンズ説が有力である。」とある。

## 回答プロセス

「禁断の実」とは、一般的にはエデンの園の知恵の木の實のこと。  
旧約聖書にはリンゴという記述はなかった。

『聖書百科全書』p.30にアダムとエバの項目があり、2人といっしょに立つ木の絵があるが、特に記述はなし。

『旧約新約聖書大事典』p.348と、『新共同訳聖書辞典』p.56に「命の木」の章はあり、具体的な果実についての絵があるが、記述はなし。

「知恵の樹(木)」、「アダムとイブ(エバ)」、「禁断の実」、「リンゴ」などをキーワードにしてインターネット等を検索したが、明記されているものは見つからなかった。

### 参考資料

『岩波キリスト教辞典』(大貫隆／[ほか]編集 岩波書店 2002年)

『日本大百科全書』24(小学館 1994年)

『聖書百科全書』(ジョン・ボウカー／編著 三省堂 2000年)

『旧約新約聖書大事典』(旧約新約聖書大事典編集委員会／編集 教文館 1989年)

『新共同訳聖書辞典』(キリスト新聞社 1995年)

Q.

「大清国人奥州ニ漂着 松平政千代殿領分陸奥国仙台本吉郡十三濱」  
という文章を古文書で読んだ。  
清国人が漂着したということだと思うが、これは何年の事件なのか？

A.

寛政8年(1796年)6月7日。  
仙石頭平百部八坐供(堤石吞甲北工町)へ広東船が漂着し、14人が切りつけられた。  
翌日、医師と筆問筆答し、広東省広州の出身だとわかる。  
村の旅館に泊めて、蚊帳や布団、てぬぐいなどを与え、藩の役人が面倒を見た。  
同年10月28日に海路で長崎に護送し、長崎から帰国した。  
伊達家の家紋である九曜の星印の旗を立てて石巻河口を出発したときには見物客  
が集まり、前代未聞の騒ぎだったという。  
漂客たちは夏以来の大恩に深く感謝して、礼状を一通役人に送った。

『北上町史 通史編』p.464、『異国漂流奇譚集』p.345

『北上町史 通史編』によると、広東船の漂着の顛末を記した史料が二つあり、日付  
について「広東漂船襍記」では7日、「広東船漂着船問答日記」では4日になっている。

ただし、大室浜の山神社にのこされた船材の銘文には6月7日とあり、「広東漂船襍  
記」の日付と一致している。

## 回答プロセス

大体の年代を知るために松平政千代について『仙台人名大辞書』の異名別号索引  
を調べると、政千代が九代仙台藩主伊達周宗の幼名とわかり、p.675で伊達周宗の項  
をみると、生没年が寛政8年(1796)～文政9年(1826)だとわかった。この辺りの時代に  
絞って探すことにする。

十三濱は現在の石巻市北上町なので、『北上町史』通史編を探すと記載があっ  
た。さらに、「漂着」、「広東船」をキーワードに検索すると、『異国漂流奇譚集』が見つ  
かった。

### 参考資料

『北上町史』通史編(北上町史編さん委員会／編 北上町 2005年)

『異国漂流奇譚集』(石井研堂／編 新人物往来社 1971年)

『仙台人名大辞書』(菊田定郷／著 仙台郷土研究会 2000年)

Q.

金成善左衛門という人物とは？  
教育に携わったことや自由民権運動、東北自由新聞との関わり  
なども知りたい。

A.

金成善左衛門

先祖は代々、伊達家の鷹師衆を務める。  
戊辰の志士、明治11年志田・玉造郡長を任じられる。  
自由民権運動が盛んになると、職を辞し、人力車夫となった。  
明治15年東北自由新聞を発刊する。  
大正4年東京に没する。享年77。  
『志田郡沿革史』に肖像写真有り。

金成善左衛門と教育との関係については『宮城県教育百年史』第1巻明治編、『宮城県史』11教育、『明治初年の宮城教育』などといった資料に詳しい。

自由民権運動との関わりについては、古川有志懇親会政談演説会に金成が仙台から参加したという記述がある(『古川市史』第9巻出典:陸羽日日新聞 明治15年3月24日)。このように自由民権運動が仙台を中心に宮城県内に広がった流れは『仙台市史』通史編6でわかるが、金成についての記述は見当たらない。

東北自由新聞についても、『河北新報の生誕前後』明治・仙台・新聞誌で、明治15年6月に発行されたことは確認できたが、金成についての記述はなかった。

## 回答プロセス

『仙台人名大辞書』p.275に、戊辰の志士であること、志田・玉造郡長になったこと、東北自由新聞を発行したことなどが載っていたので、そこを糸口に、志田郡や古川の地元新聞の歴史などを調査した。

### 参考資料

- 『仙台人名大辞書』(菊田定郷／著 仙台郷土研究会 2000年)
- 『宮城県姓氏家系大辞典』(角川書店 1994年)
- 『志田郡沿革史』(国書刊行会 1982年)
- 『仙台郷土研究』復刊第26巻2号「金成善左衛門と星旬太郎」
- 『宮城県教育百年史』第1巻明治編(ぎょうせい 1976年)
- 『宮城県史』11教育(宮城県／著)
- 『明治初年の宮城教育』(宇野量介／著 宝文堂 1973年)
- 『古川市史』第9巻(古川市 2005年)
- 『仙台市史』通史編6(仙台市 2008年)
- 『河北新報の生誕前後』(河北新報紙齢三万号記念事業委員会／編 河北新報社 1980年)

Q.

宮城県丸森町にある「齋理屋敷」について詳しく知りたい。

A.

「齋理屋敷」は江戸時代から昭和にかけて7代続いた豪商「齋藤家」の屋敷。代々の当主が齋藤理助を名乗ったことから齋理と呼ばれるようになった。呉服・太物の商いから、養蚕、味噌醤油の醸造など幅広い商売を手がけて栄えたが、第二次大戦後に店を閉じた。

齋理第七代齋藤理助氏から齋理屋敷及び収蔵品が丸森町に寄贈されたことから、収蔵品を調査・整備して、昭和63年に「蔵の郷土館齋理屋敷」として開館し、一般公開している(有料)。

蔵と屋敷に、豪商の暮らしぶりを物語る豪華な調度品や、商売の道具など様々な品を展示しているが、これについては『町の豪商 齋理屋敷収蔵品』に詳しく記してある。

## 回答プロセス

「齋理屋敷」をキーワードに検索すると、『町の豪商』 齋理屋敷収蔵品、『丸森町史』 通史編、『丸森町史』 史料編、『蔵の遺した時代』が見つかった。

また、齋理屋敷は観光名所として有名なので、ホームページを検索した。ホームページには齋理屋敷の歴史や入場料、催し物などが載っていてわかりやすい。

### 参考資料

『丸森町史』 通史編(丸森町史編さん委員会／編集 丸森町 1984年)

『丸森町史』 史料編(丸森町史編さん委員会／編集 丸森町 1980年)

『町の豪商 齋理屋敷収蔵品』 丸森町文化財第十一集

(丸森町教育委員会 1986年)

『蔵の遺した時代』 蔵の郷土館齋理屋敷収蔵品抄録

(丸森郷土研究会／編 1990年)

蔵の郷土館齋理屋敷ホームページ

<http://www.marumori.net/sairi.html>

(2010年3月1日現在)

Q

現在仙台市青葉区にある「愛子(あやし)」という地名の由来を知りたい。

A

愛子という地名は、『安永風土記書出』には「当村横町と申す所に相立ち申し候子愛観音之有りを以て、当村の名に申し来り候由御座候」とあり、この「子愛観音」から「愛子」となったという。

現在も、下愛子横町旧補陀寺内に子愛観音堂があって、子安観音像が祀られている。

この子愛(こあやし)の観音様の名称から、「あやし」の語を「愛子」の文字に入替えて「あやし」と読むようになったものと見られている。

「安永風土記」によると、この観音像は「木仏坐像、御長七寸、定澄作」と伝えられ、後背の裏に「文治三年(1187年)九月吉祥日」「子愛観音」と銘がある。

『宮城県地名考』p.424より

## 回答プロセス

地名の由来ということなので、『宮城県地名考』を見ると概要はわかった。

『宮城県の地名』p.222にも『宮城県地名考』と大体同じような解釈が載っていた。

現在の青葉区愛子の周辺は旧宮城町なので、『宮城町誌』p.84も念のため調べてみたが、『宮城県地名考』と同じようなことが載っていた。

\* 「安永風土記」とは

仙台藩が安永年間(1772～1781年)に村単位あるいは知行所単位に提出させたもので、「風土記御用書出」は村名の由来、田畑の収穫高、男女別人口、家数、牛馬の数、名所旧跡、寺社、山川、堤、産物、道、村境など所定の項目についてまとめである。

「風土記御用書出」を中心に「代数有之御百姓書出」「品替御百姓書出」「古人書出」「神職書出」「寺院書出」等から構成される古記録群である。

参考資料

『宮城県地名考』更新版(菊地勝之助／著 宝文堂出版販売 1972年)

『宮城県の地名』日本歴史地名大系 4 (平凡社 1987年)

『宮城町誌』本編(改訂版)(宮城町誌改訂編纂委員会 仙台市役所 1988年)

Q.

民法900条法定相続の改正前の条文が見たい。  
昭和55年に一部改正と聞いたので、それ以前のもので。

A.

昭和51年(1976年)発行の『注釈民法』25 相続p.144に昭和55年一部改正前の民法900条の全文があった。

第900条 同順位の相続人が数人あるときは、その相続分は、左の規定に従う。

1 子及び配偶者が相続人であるときは、子の相続分は、3分の2とし、配偶者の相続分は3分の1とする。

2 配偶者及び直系尊属が相続人であるときは、配偶者の相続分及び直系尊属の相続分は、各々2分の1とする。

3 配偶者及び兄弟姉妹が相続人であるときは、配偶者の相続分は、3分の2とし、兄弟姉妹の相続分は3分の1とする。

4 子、直系尊属又は兄弟姉妹が数人あるときは、各自の相続分は相等しいものとする。但し、嫡出でない子の相続分は、嫡出である子の相続分の2分の1とし、父母の一方のみを同じくする兄弟姉妹の相続分は、父母の双方を同じくする兄弟姉妹の相続分の2分の1とする。

## 回答プロセス

まず、『現行日本法規』15 民事で民法第900条を確認すると、現在の法律全文が掲載されており、その一番最後に(昭三七法四十・昭五五法五一・平一六法一四七・一部改正)とある。

官報情報検索サービスで「昭五五法五一」を調べると、昭和55年に改正された内容が確認できた。

しかし、その改正前の条文を探すためには、昭和55年以前の法令が載っているものが必要なので、『六法全書』を探したが、平成7年度以降のものしか所蔵がなかった。

そこで民法の注釈書で昭和55年以前の蔵書を探し、『注釈民法』の昭和51年(1976年)発行のものを提供した。

### 参考資料

『注釈民法』25 相続(中川善之助／(ほか)編集 有斐閣 1976年)

『現行日本法規』15 民事(法務大臣官房司法法制調査部／編 ぎょうせい)

Q.

世界各国の年金の、具体的な支給額が知りたい。

A.

新しい年金額を調べるのならば、『図表でみる世界の年金』p.82～195に各国の通貨で換算された額が表示されているので、算出方法を見ながら計算することができる。

参考までに『平成16年 厚生労働白書』p.438を提示した。

- ・日本……174,839円(原則20年以上厚生年金に加入した受給者についての厚生年金及び基礎年金受給額の平均)2002年現在。
- ・アメリカ…単身者874ドル(105,317円)、夫婦1,320ドル(159,060円)。  
【1ドル=120.5円】2001年現在。
- ・イギリス…<基礎年金>単身者328ポンド(61,172円)、夫婦524ポンド(97,726円)。  
<付加年金>全受給者84ポンド。  
【1ポンド=186.5円】2002年現在。
- ・ドイツ……<労働者年金>全受給者1,156マルク(63,580円)  
<職員年金>全受給者1,572マルク(86,460円)  
【1マルク=55円】2001年現在。
- ・スウェーデン…<基礎年金>全受給者2,780クローネ(33,360円)  
<付加年金>全受給者6,090クローネ(73,080円)  
【1クローネ=12円】2001年現在←旧制度

## 回答プロセス

「世界の年金」をキーワードに検索すると、『図表でみる世界の年金』が見つかった。データベース『朝日・聞蔵』によると、『週刊アエラ』(2004年8月9日号)に世界の年金という記事があり、“先進国5ヶ国の金額が日本円に換算されている”とあった。元になった資料として『厚生労働白書』平成16年が挙げられていたので提供した。

### 参考資料

『図表でみる世界の年金』(OECD／編著 明石書店 2007年)

『厚生労働白書』平成16年 (ぎょうせい 2002年)

# Q.

仙台市の学校給食で、脱脂粉乳から牛乳に切り替わった時期を知りたい。

# A.

『仙台市の学校給食』p.10の仙台市学校給食年表に、「昭和33年1月 牛乳を給食に使用する。」とあった。

「混合180ccから全乳200ccに」という記事文が下記にあった。

昭和45年4月28日河北新報夕刊「24時間都市・センダイ、8」

「きょうの献立は、角パン3枚、チョコバター、ゆで卵1個、リンゴ約3分の1個、牛乳1本。混合180ccが、ことしから全乳200ccに変わった。＜中略＞仙台市内の小・中学校のうち、高砂給食センターで引き受けているのが十六校。近く中田センターが完成して倍増する。給食費は、月に小学生が九百円、中学生が千二百円。＜中略＞物価高の折り給食費は高くならざるを得ない。」  
グラビアは長町小学校の給食風景である。

「昭和45年 委託混合乳から牛乳給食開始」

仙台市教育委員会健康教育課ホームページ

PDFファイル「仙台市学校給食のあゆみ」より

## 回答プロセス

「学校給食」をキーワードに検索し『仙台市の学校給食』を見つける。

周囲の人(当時を知る人びと)に聞き込みをし、昭和45年4月の河北新報で探し、当時の記事を見つける。

また、インターネットで「給食」「仙台市」「牛乳」といったキーワードで検索し、仙台市教育委員会健康教育課のホームページで、「仙台市学校給食のあゆみ」というファイルを見つけた。

### 参考文献

『仙台市の学校給食』完全給食10周年記念(仙台市教育委員会 1961年)

仙台市教育委員会健康教育課ホームページ

<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/kenko-k/pdf/ayumi.pdf>

(2010年3月1日現在)

Q.

幼い頃(戦前から戦後しばらく)、仙台に住む親戚から何度か甘い豆菓子をお土産にもらった。  
仙台の名物と聞いていたのに、今現在、仙台駅などで探しても見当たらない。名前はわからないけれど、できればもう一度食べたいのだが。

A.

その菓子は「政岡豆」ではないか。

『みちのくの菓匠たち』のp.117～p.121に、「大豆に、金平糖の角出し技術を応用して、砂糖で衣をかけ、白、緑、こげ茶の三色。容器には先代萩殿中政岡ままたきの場面を美術印刷によって印象づけた」とある。

また、製造していた「政岡屋は昭和16(1941年)菓子の企業整備が強行されることになったのをきっかけに廃業したが、昭和24年に未亡人深川キミが東五番町南町通り角に政岡家本店を復興し、現在は株式会社松屋本店社長渡辺正が受け継ぐ」とある。

しかし株式会社松屋という名前は、タウンページ、商工会議所名鑑等に見当たらないため現在は作られていないようだ。

## 回答プロセス

『仙台遊覧の枝折』の菓子のページに「菓子 昔からの名産菓子として～政岡豆、松島豆、萩の露・・・」とある。

『仙台商工名鑑』の巻頭グラビアページの「仙台銘菓」に“仙台豆”として“政岡豆”のパッケージが写っている。

『宮城県百科事典』p.962に、“政岡豆”として、「その深い味わいは、政岡の名とともに広く知られ、土産品としての評価が高い」という記述がある。

以上の資料から、戦前から昭和50年代までは、仙台の銘菓として有名だったということが推測できる。

### 参考資料

『みちのくの菓匠たち 回顧五十年史』(大山勝義／著 東北菓子食料新聞社 1973年)

『仙台遊覧の枝折』(小山源蔵／編 1928年)

『仙台商工名鑑』 1958年版(仙台商工名鑑編纂委員会 仙台市役所商工課)

『宮城県百科事典』(河北新報社 1982年)

Q

だて ちけ きろく

『伊達治家記録』 3巻のp.712上段に「ヨリミツ」とあるが、どういうものか？

A

菓子の名前である。正しくは「ヨリミズ」。  
 上等の新粉に砂糖を混ぜて練り、算木の形に作って細長くひねったもの。  
 茹でるか、蒸すかした。

## 回答プロセス

『伊達政宗言行録』、『古典料理の研究』、『図説江戸料理事典』などの、郷土料理や料理事典を探すが、記述がない。

一般の書架の、料理(分類 596)や料理史(分類 383.3)の書架を探す。

『江戸料理史・考』p.21に「ヨリミツ」の記述あり。

正しくは「ヨリミズ」とあった。

『近世菓子製法書集成』1p.54の「よりみ川」の項目に、「よりみ川の名は、よりみづが正しいようだ。」という記述があった。

『日本国語大辞典』 第13巻p.712に「よりみず(づ)」の項目あり。

### 参考資料

『江戸料理史・考』(江原恵／著 河出書房新社 1986年)

『日本国語大辞典』 第13巻(小学館 2002年 )

『近世菓子製法書集成』1(平凡社 2003年 )

『伊達政宗言行録』(小倉博／編 宝文堂 1987年)

『古典料理の研究』(12)(千葉大学教育学部 1987年)

『図説江戸料理事典』(柏書房 1996年)

### 『伊達治家記録』とは？

仙台藩主伊達政宗の父・輝宗から十三代慶邦までの記録。

元禄年間に、四代藩主綱村から編纂が始められた。

日々の出来事が記されているため、藩政資料として貴重。

『貞山公治家記録』なども含まれる。



伊達家のことを調べるには？

『伊達世臣家譜』、『伊達家史叢談』、『私本仙台藩士事典』等、数多くの資料がある。

Q.

「戦陣訓」を全文読んでみたい。

A.

『昭和ニュース事典』VII昭和十四年／昭和十六年 p.327～330

「内容は序に始まって、(一)集団的道義を説いた本訓その一、(二)個人的徳目の十項目に言及した本訓その二、(三)同その三、第一戦陣訓の戒め、第二戦陣訓の嗜み、(四)結びの項目から成り厩大なものであるが、全訓を通じ戦場に於ける皇軍将兵の徳義と戒律を説いて剰すところがない。」(昭和16年1月8日 朝日)

## 回答プロセス

「戦陣訓」をキーワードに検索したが、全文が載っているものはなかった。

『「昭和」を知る本』1政治p.265に昭和16年(1941)1月8日に東条英機陸軍大臣が示達した告示であるとあるが、全文は載っていない。

インターネットで検索すると、当時の新聞などのメディアが大きく報じたとあったので、その年月日に該当する『昭和ニュース事典』VIIp.327～330を調べると、全文が掲載されていた。

### 参考資料

『昭和ニュース事典』VII(昭和ニュース事典編纂委員会／編集製作 毎日コミュニケーションズ 1994年)

『「昭和」を知る本』1政治(日外アソシエーツ 2006年)

Q.

「黄瓜菜」とは、どんな草花なのかを知りたい。

A.

「黄瓜菜(にがな)」または「苦菜」は、キク科の多年草で日本全国にごく普通に生息していて、茎や葉に苦味のある白い乳液をふくんでいるので、その名がある。別名「チチグサ」「オトコジシバリ」とも呼ばれている。『野草大百科』p.6にカラー写真と説明が載っている。『日本大百科全書』17巻p.670には、カラー図版と説明がある。

## 回答プロセス

まず、読み方を調べると、『図説草木名彙辞典』p.392で「にがな」と読むことがわかる。

『植物レファレンス事典』p.662の「ニガナ」の項目で紹介されていた資料の中から上記の資料など何冊か選んで提供した。

### 参考資料

『図説草木名彙辞典』(柏書房 1991年)

『植物レファレンス事典』(日外アソシエーツ編集部／編集 日外アソシエーツ 2004年)

『野草大百科』(北隆館 1992年)

『日本大百科全書』17巻(小学館 1987年)

『原色牧野植物大図鑑』合弁花・離弁花編(牧野富太郎／著 北隆館 1996)

## 謎のアルファベット・・・？

図鑑、辞典、事典などの、調べるための本を、図書館では“レファレンスツール(調べるための道具の意)”と呼んでいます。

こういった本の背表紙の下のラベルを見ると数字の前にアルファベットがついています。

調べるための本、参考図書は“R”

→ R470

仙台や宮城県など、郷土に関する本は“S”

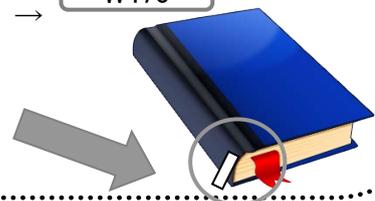
→ S470

『厚生労働白書』や『防災白書』などの白書は“W”

→ W470

外国語で書かれた本は“Y”

→ Y470



# Q.

伊達政宗が食べた料理を自分で作ってみたいのだが、料理の内容や献立が書いてある本はあるか？できれば写真がついているものを見たい。

# A.

わかりやすく書かれた資料がいいということなので、出典となっている本の説明をしながら、以下の資料を提供。

『仙台市博物館調査研究報告』第12号には「もう一つの伊達政宗言行録—木村宇右衛門覚書—(六)」という覚書があり、正月膳の内容が詳細に載っていて、仙台雑煮の写真もついている(ただし白黒)。

寛永7年(1630年)に将軍家光を接待したときの献立は、『風雲伊達政宗』p.192～p.193、『江戸料理史・考』p.20～p.24にあった。

## 回答プロセス

まず、郷土料理の書架を探す。

『郷土食の過去と現在』に第13代藩主慶邦の正月の膳が紹介されていて、これは政宗の頃からはほぼ同じだとある。翻刻は『伊達家年中行事記録』なので、この本を検索すると、『古典料理の研究』(12)に記載があった。

伊達政宗関係の本から探すと、『伊達政宗言行録』p.311～312に料理に関する解説がある。

他にもいくつかの項目が紹介されている。

『独眼竜政宗の素顔』p.163～168に正月膳と将軍家光接待の献立が紹介されているが、出典は『仙台市博物館調査研究報告』第12号で、写真も載っていた。この写真は雑誌『サライ』1990年1月号の「名家名士の雑煮」という企画で、宮城調理師専門学校が復元したものを撮った写真とのこと。

雑誌『サライ』の1990年1月号は宮城県図書館で所蔵しているので、取り寄せできる。

将軍家光を接待したときの献立は、『風雲伊達政宗』でも見つけたが、出典は『伊達治家記録』となっている。

### 参考資料

『仙台市博物館調査研究報告』第12号「もう一つの伊達政宗言行録—木村宇右衛門覚書—(六)」(小井川百合子／編 仙台市博物館 1992年)

『風雲伊達政宗』(学研 2001年)

『江戸料理史・考』(江原恵／著 河出書房新社 1986年)

『郷土食の過去と現在』(東北民俗の会／編集 2006年)

『古典料理の研究』(12)(松下幸子／著 千葉大学教育学部 1987年)

『伊達政宗言行録』(新人物往来社 1997年)

『独眼竜政宗の素顔』(逸見英夫／著 宝文堂 1996年)

『サライ』1990年1月号(小学館)

Q.

仙台市がデザイナーへ補助金を出しているという記事を、雑誌で読んだ。その詳しい内容が知りたい。

A.

補助金の名称は「創造的産業支援事業」である。  
「地元企業とデザイナー等とのマッチングや、仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム等と連携し、創造的産業振興プロジェクトの立ち上げを行う。」(一部抜粋)とあり、仙台市産業振興事業団の平成21年度事業計画書に概要が記されている。

## 回答プロセス

まず仙台市のホームページから、仙台市産業振興事業団のページに行き、平成21年度事業計画書で確認した。

[http://www.siip.city.sendai.jp/cb\\_soumu/h21pjplan.pdf](http://www.siip.city.sendai.jp/cb_soumu/h21pjplan.pdf)

(2010年3月1日現在)

## 図書館

ではホームページやデータベースが閲覧できます

### データベース

河北新報データベースKD(市内全館)  
日経テレコン21(市民図書館・泉図書館)  
日本法情報検索サービス(Lexis Nexis JP)  
(市民図書館・泉図書館・宮城野図書館)

### ホームページ(市内全館)

仙台市 仙台市図書館  
宮城県 宮城県図書館  
国立国会図書館



Q

昔駅前にあった丸光デパートのミュージックサイレンはいつ始まって、いつ終わったのか知りたい。

A

ミュージックサイレンの開始は昭和28年12月で、このことは『宮城県百科事典』  
『火の人 佐々木光男伝』p.158にある。ただ、終了については同著に記述がなく、河北新報データベースKDの記事検索によると平成12年10月5日付河北新報の記事に載っていた。

\*丸光デパートとは

（株）丸光。仙台駅前正面（現さくら野百貨店）に本店を構えていた。

創業昭和21年(1946年)。

戦後東北で始めて広告ネオンを屋上に設置して話題になった。

全館蛍光灯、エスカレーターを設置、海に見える展望台などいずれも東北初見参であった。

屋上のミュージックサイレンは、朝10時、正午、午後3時、5時、夜9時 で土井晩翠の「荒城の月」のメロディーを流し、仙台名物の一つといわれた。

昭和60年(1985年)に店名を「ダックシティ丸光」、平成3年(1991年)には「仙台ビブレ」と変更し、「丸光」の名前が看板から消えた。

## 回答プロセス

「丸光」をキーワードに検索したところ、丸光デパート創業者の伝記『火の人 佐々木光男伝』に記載があることがわかった。

『宮城県百科事典』には、ミュージックサイレンの概要が載っていた。

ミュージックサイレンの終了に関しては、書籍では見当たらなかったが、河北新報データベースKDの記事検索で見つけることができた。

参考資料

『宮城県百科事典』(河北新報社／編集 河北新報社 1982年)

『火の人 佐々木光男伝』(佐々木光男伝編纂委員会／編纂 丸光 1973年)

Q.

仙台にはじめて建ったホテルについて知りたい。

A.

東北初のホテルが開店した時期は、明治21年(1888)と明治23年(1890)の2説あった。ホテル仙台プラザのホームページによると、「陸奥ホテル」の創業は明治21年と紹介されている。

『仙台老舗百店史』では創業明治21年と記載されているが、『仙台はじめて物語』p.89～91によると東北最初のホテルは日本鉄道経営の「仙台陸奥館」で、仙台駅構内に明治23年3月19日に完成したとある。最初に「ホテル」という名称を使ったのは「陸奥ホテル」で、仙台陸奥館の別館として明治25年(1892)7月21日に開店したとある。場所は駅前広場北側の現在のパルコのあたりであった。

『仙台老舗百店史』p.122によると、「東北初のホテルは陸奥ホテル別館で、創業は明治21年のことである」と記載されている。

「陸奥ホテル」と「陸奥館」は混同して記載されていたようだ。

陸奥ホテルは売却され、「陸奥別館青木ホテル」となり、その後「仙台セントラルホテル」と名前を変える。

現在は「ホテル仙台プラザ」となり、場所も仙台駅構内ではない。

## 回答プロセス

まず、『仙台はじめて物語』を、それから『仙台老舗百店史』を調べてみた。

すると、「仙台陸奥館」「陸奥ホテル」「明治21年」「明治23年」といくつかキーワードが出てきたので、検索してみたが出てこなかった。

陸奥ホテルは後に仙台セントラルホテルに名称を変えたということから、仙台セントラルホテルの経営者だった青木助三郎氏の著作『仙台駅界限八十年』にたどりつく。

『仙台駅界限八十年』p.9に、「明治22年の仙台市の地図を見ると(中略)陸奥館という直営の洋風ホテルがあった。」とある。

そこで、『改正仙臺市明細全図』という明治22年の地図を調べるが、陸奥館の記載はなかった。

また、仙台セントラルホテルは、現在のホテル仙台プラザということがわかり、ホテル仙台プラザの公式ホームページにたどりついた。

### 参考資料

『仙台はじめて物語』(逸見英夫／著 創童舎 1995年)

『仙台老舗百店史』(藤井健児／編著 ユーモア・アドバイス社 1968年)

『仙台駅界限八十年 或る「一匹狼」の生涯』(青木助三郎／著 仙台セントラルホテル 1968年)

『改正仙臺市明細全図』(複製)(三輪秀春／著 仙台静雲堂 1889年)

ホテル仙台プラザ公式ホームページ <http://www.hotelsendaiplaza.co.jp/>

(2010年3月1日現在)

Q.

『現行日本法規』(加除式)の「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」中の車両種類の略称は最新版であるため、改正されていると思う。初めの頃の車両の種類の種類がどうなっていたかを知りたい。

A.

「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」は、昭和35年(1960年)12月17日の官報号外第122号総理府建設省第三号で告示されている。

同官報の別表第二(道路標識の様式)備考一標識板(六)に車両の種類の種類がある。

該当の官報は仙台市図書館には所蔵がなく、宮城県政情報センターを紹介した。

(仙台市立の図書館が開館したのは市民図書館が昭和37年なので、それ以降の所蔵のみ)

宮城県政情報センター(宮城県庁内)では昭和8年から所蔵しており、閲覧・複写もできる。

## 回答プロセス

『現行日本法規』 23 道路p.887で該当する部分を確認し、官報情報検索サービスで記述されている箇所を特定した。該当の官報は、宮城県図書館と宮城県政情報センターで所蔵。

参考資料

『現行日本法規』 23 道路(法務大臣官房司法法制調査部／編 ぎょうせい)

## 全国の電話帳が閲覧できます

市民図書館、泉図書館、宮城野図書館では、全国のタウンページ、ハローページが閲覧できます。電話番号を調べるのはもちろんのこと、タウンページには特集のコーナーがあり、グルメ情報やペット特集、病院特集などの暮らしに役立つ情報も読むことができます。

エリアマップも付いていますから、引越しの予定のある方などは、ぜひ参考にのぞいてみてはいかがでしょうか。

また、掲載のご当地企業の広告も、お国柄が見えて楽しいものです。



Q.

ハンガリーの画家シニエイ＝メルシェ・パールについて詳しく知りたい。絵も見たい。(『新潮世界美術辞典』のコピー持参で)この他に何かないか？

A.

『世界美術大全集』第21巻p.285の図152に「5月のピクニック」がある。

『ハンガリー国立美術館所蔵19世紀ヨーロッパ・ハンガリー絵画展』のp.89～94に「恋人たち」「秋の風景」「気球」「画家の妻の肖像」「冬」の作品があり、作者の略歴がp.127にある。

シニエイ＝メルシェ・パール(シニエイ＝メルシェ・パール) 1845～1920年  
1864年、ミュンヘン・アカデミーで学び始め、1867年から69年までカール・ピロティの弟子となる。  
1873年のウィーン万国博覧会で「浴場」により受賞し、その後一度筆を絶つが、復活して数々の賞を受賞。1908年、ハンガリー初の近代美術協会設立に尽力した。

## 回答プロセス

質問者が持参した『新潮世界美術辞典』p.648の記述をもとに、19世紀絵画やハンガリー絵画に着目して、他の資料を探す。

『西洋美術作品レファレンス事典』絵画篇19世紀中葉以前のp.219によると、「5月のピクニック」という作品が『世界美術大全集』第21巻に載っていることがわかった。

キーワードを“ハンガリー絵画”にして検索すると、『ハンガリー国立美術館所蔵19世紀ヨーロッパ・ハンガリー絵画展』が見つかった。

### 参考資料

『新潮世界美術辞典』(新潮社 1985年)

『世界美術大全集』第21巻(小学館 1993年)

『ハンガリー国立美術館所蔵19世紀ヨーロッパ・ハンガリー絵画展』(NHK／編集 NHK 1994年)

『西洋美術作品レファレンス事典』絵画篇19世紀中葉以前(日外アソシエーツ 2005年)

Q.

「里の秋」という童謡は、昔は違う歌詞だったと聞いたが、それはどんな歌詞だったのか？  
なぜ現在の歌詞に変わってしまったのか？

A.

「里の秋」という歌詞は、昭和16年(1941年)太平洋戦争の最中、東北の田舎を舞台に戦地の父への慰問文として書かれたもので、曲はついていなかった。

曲名は「星月夜(ほしつきよ)」で、詞の1番と2番は現在と同じだが、3番と4番の歌詞は次のとおり。

3  
きれいな きれいな 椰子の島  
しっかり 護って くださいと  
ああ 父さんのご武運を  
今夜も ひとりで 祈ります

4  
大きく大きく なったなら  
兵隊さんだよ うれしいな  
ねえ 母さんよ 僕だって  
必ず お国を 譲ります

しかし昭和20年(1945年)戦争が終わり、南方で戦っていた引き揚げ第一船が浦賀に入港することになり、JOAK(現・NHK)では「外地引き揚げ同胞激励の午後」というラジオ番組の中で「兵士を迎える歌」を流すことになった。

そのとき急遽、斉藤信夫の「星月夜」の歌詞を変え、それに海沼実が作曲し、更に曲名も「星月夜」から「里の秋」に変更されたものである。

この際に、3番と4番の歌詞は削除され、新たに3番の歌詞が以下ようになった。

3  
さよなら さよなら 椰子の島  
お船に ゆられて 帰られる  
ああ どうさんよ ご無事でと  
今夜も かあさんと 祈ります

## 回答プロセス

歌の歌詞についての資料というのは767の分類の書架にまとまっているのだが、該当の歌詞を探し出すのに一冊一冊の内容を検証した。

その結果、『童謡へのお誘い』p.382、『日本童謡事典』p.181の中に見つけることができた。

### 参考資料

『童謡へのお誘い』(横山太郎／著 自由現代社 2001年)

『日本童謡事典』(上笠一郎／編 東京堂出版 2005年)

『童謡 心に残る歌とその時代』(海沼実／著 日本放送出版協会 2003年)

『日本のうた』第2集 昭和(一)(野ばら社 1998年)

Q

野球の試合で、初回に1点入っただけで、あとは点が入らず、最後までスコアボードにゼロが並んでいることをなんというか？

A

スミイチ = 隅1

スコアボードの隅に“1”とだけ表示されることからそのように言う。

## 回答プロセス

意味はわかっても言葉自体が思いつかないので、インターネット検索で質問中の言葉をキーワードに選び検索した。

すると“スミイチ”という言葉らしいと判明したので、各種辞典で改めて確認した。

### 参考資料

『日本国語大辞典』第7巻p.1051(小学館 2001年)

『日本俗語大辞典』p.315(米川明彦／編 東京堂出版 2003年)

『野球用語辞典』p.90(舵社 2008年)

## 家にも利用できます。もっと 便利なサービス

お探しの本を  
予約できます。

インターネットサービス

今現在、どんな本を、  
何冊借りているか  
確認できます。

どんな本を  
何冊予約している  
か確認できます。



予約の本が  
届いたかどうか  
確認できます。

借りている本の  
貸出期間を  
延長できます。

\* サービスを利用するには、カウンターでパスワードをお申込みください。



Q

東北の女相撲について、詳しく知りたい。

A

「妹の力 写真記録東北女相撲」p.205～212

「やまがた女相撲異聞〈前編〉興行団・石山女相撲の八〇年」千葉由香p.266～285

『別冊東北学』Vol.6より

「やまがた女相撲異聞〈後編〉興行団・石山女相撲の八〇年」千葉由香p.276～289

『別冊東北学』Vol.7より

次の2冊は宮城県図書館で所蔵していたので、取り寄せできることを紹介する。

『女相撲史論』(雄松比良彦／著 京都謫仙居 1975年)

『女相撲史研究』(雄松比良彦／著 京都謫仙居 1993年)

## 回答プロセス

質問者は『郷土人としての仙台の珍談奇談』2に載っていた女相撲の写真をご覧になり、さらに詳しく知りたいということ。

上記の写真の説明に「岩手県水沢市の旅館にゆかりのある平井ハナさん」と「第一北州倶楽部」とあるので、この2語をキーワードに検索するが見つけれなかった。

国会図書館の雑誌記事検索で、『別冊東北学』に関連記事が載っていることがわかり提供することができた。

### 参考資料

『郷土人としての仙台の珍談奇談』2(田村昭／編著 宝文堂 1995年)

『別冊東北学』Vol. 6(赤坂憲雄／責任編集

東北芸術工科大学東北文化研究センター 2003年)

『別冊東北学』Vol. 7(赤坂憲雄／責任編集

東北芸術工科大学東北文化研究センター 2004年)

Q.

「槍術」という武道があるが、宮城県での歴史を知りたい。

A.

宮城県に伝わった槍術は、岡野流をはじめ心眼流、新陰正田流など18流派があり、伊達家の御流儀兵法は本心鏡智流である。

瑞鳳寺にある「槍形碑」は、槍術師範富塚玄門が生前に建てた自分の墓。

富塚玄門は、もとは宮城郡愛子村の樵夫で、木の枝を削って槍にして滝を登る鯉を突いているうちに槍術をおぼえ、仙台北下で各道場で勝負をしたが負け無しだった。

噂を聞いた藩主吉村が御膳試合に呼んでその妙技に感心し、三百石を賜って槍術師範を命じた。『宮城県史』 18巻p.418

『仙台郷土研究』復刊第6巻第1号通巻222号の「特集 仙台藩の武芸」という特集記事があり「風伝流槍術の仙台藩伝来について」「黒川郡大衡村に伝わった風伝流槍術と柳生流剣術」といった記事が載っていた。

また、『仙台郷土研究』復刊第8巻第1号通巻226号p.25に「槍術家・富塚玄門」という記事があった。

明治になってからは槍術は廃れ、現在宮城県には道場なども見当たらないようだ。

## 回答プロセス

「槍術」をキーワードに検索したところ、『宮城県史』 18巻『宮城県史』 32巻 史料篇p.63、『仙台郷土研究』復刊第6巻第1号通巻222号、『仙台郷土研究』復刊第8巻第1号通巻226号、『浜田家に相伝された風伝流槍術の伝巻』が見つかった。

『日本武道体系』第7巻によると、明治になって槍術の大方の流派は廃れてしまい、わずかに宝蔵院流など数派が残るのみということ。

インターネットで、現在宮城県に残っている流派や道場を探したが見つからなかった。

### 参考資料

『宮城県史』 18巻 医薬・体育(宮城県／著 ぎょうせい 1987年)

『宮城県史』 32巻 史料篇(宮城県／著 ぎょうせい 1987年)

『仙台郷土研究』復刊第6巻第1号通巻222号(仙台郷土研究会／編 仙台郷土研究会1981年)

『仙台郷土研究』復刊第8巻第1号通巻226号(仙台郷土研究会／編 仙台郷土研究会 1983年)

『浜田家に相伝された風伝流槍術の伝巻』(渋谷鉄五郎／著 仙台郷土研究会 1963年)……仙台郷土研究第23巻第2号抜粋

『日本武道大系』第7巻 槍術・薙刀術・棒術・鎖鎌術・手裏剣術(同朋舎 1982年)  
日本古武道協会ホームページ

<http://www.nihonkobudokyoukai.org/about/> (2010年3月1日現在)

Q

「水落ちて元の海に入り、月落ちて天を離れず」という言葉は、武田信玄が言った言葉だと長年思っていたが、最近になって、別人が言ったのを武田信玄が引用したのだと知った。もともとは誰が言った言葉なのか知りたい。

A

元の明本禅師と、ある僧の問答である。

『禅語入門』p.256によると、出典は禅籍『五燈会元』第16巻

\*明本(みょうほん)禅師とは

1263～1323年 中国元代の臨済宗楊岐派破庵(ほあん)の僧。

教禅一致の思想を有し、日本臨済宗に大きな影響を及ぼした。

号は中峰、幻住道人と称する。 『佛教大事典』p.960より

## 回答プロセス

質問者をご覧になったのは『甲陽軍鑑』と判明。これは、戦国武将である武田氏の戦略や戦術を記した軍学書。武田信玄・勝頼代の合戦記事を中心に、軍法、刑法などを記している。

市民図書館所蔵の『甲陽軍鑑』上p.206を見ると、この言葉は「古いことわざ」であるとある。

\*『成語林 故事ことわざ慣用句』p.1078

「人間がもって生まれた性質を変えたり、境遇や環境の影響で身についた習性から抜け出したりすることは難しいものであるというたとえ」とあるが出典はなかった。

\* インターネットで“禅語”をキーワードに調べる。

『禅語入門』(久須本文雄／著 大法輪閣 2000年)

『禅語辞典』p.236(古賀英彦／編著 思文閣出版 1991年)

サイト『茶席の禅語集』

<http://zengo.bungaku1.com/about/about.html> (2010年3月1日現在)

参考資料

『佛教大事典』(小学館 1988年)

『佛教大字典』 第6巻p.4316(龍谷大学 1974年)

『甲陽軍鑑』上(腰原哲朗／訳 教育社 1979年)

『成語林 故事ことわざ慣用句』(旺文社 1992年)

Q

昭憲皇太后(明治天皇の皇后)の和歌が載っている本はないか？

A

「みがかずば 玉も鏡も なにかせむ まなびの道も かくこそありけれ」  
明治8年女子師範学校開校式で昭憲皇太后がお詠みになった歌である。

「外国の まじらひ広くなるままに おくれじとおもふ ことぞ そひゆく」  
昭憲皇太后はつねに天皇の側で憲法学の授業を聴講したが、  
そのころの思い出として詠まれた歌である。

上記の歌は、『歴代皇后人物系譜総覧』p.277～278、『講談社日本人名大辞典』  
p.964で見ることができる。

その他に宮城県図書館所蔵の『昭憲皇太后御集』と『類纂新輯昭憲皇太后御集』を  
取り寄せて提供した。

## 回答プロセス

「昭憲皇太后」をキーワードに検索したが、歌の載っている本はなかった。

皇室関係の書架にあった『歴代皇后人物系譜総覧』、『講談社日本人名大辞典』で  
上記の歌を見つけた。

『詩歌人名事典』の昭憲皇太后の項目に『昭憲皇太后御集』、『類纂新輯昭憲皇太  
后御集』に短歌が収められていることがわかった。

仙台市図書館には所蔵がない資料だが、宮城県内図書館総合目録で宮城県図書  
館にあることがわかった。

### 参考資料

『歴代皇后人物系譜総覧』(新人物往来社 2002年)

『講談社日本人名大辞典』(講談社 2001年)

『詩歌人名事典』(日外アソシエーツ/編集 日外アソシエーツ 2002年)

『昭憲皇太后御集』(文部省 1924年)

『類纂新輯昭憲皇太后御集』(明治神宮 1990年)

本の道案内～図書館レファレンス事例より～

---

平成 22 年 4 月発行

編集 仙台市図書館

発行 仙台市民図書館

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町 2-1

せんだいメディアテーク内

電話 022-261-1585 (代)

---